

国際交流基金設立40周年を迎えて



2012年(平成24年)10月2日は国際交流基金の40歳の誕生日です。1972年(昭和47年)に発足して以来、当基金の活動とその役割に対し、日本の内外で一定の評価をいただいていることは、国際文化交流に関わる皆様、諸先輩方のご支援とご尽力の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。設立40周年の節目を迎え、私はこの伝統ある組織の理事長として、新たな展望とともに引き続き「挑戦」を続けていきたいと考えています。

経済力において、日本がまだ世界の上位に位置していることは事実ですが、世界のなかでの存在感は相対的に低下しつつあります。しかし、東日本大震災の際に改

めて高い評価を得た日本人の生きざまや、日本の文化力には優れたものがあります。日本の良さ、魅力をより多くの海外の方に知っていただき、日本に対する理解を深めていくことが、これからの日本にとって重要であると考えております。東日本大震災の後、被災地の皆さまの復興へのご努力をさまざまな形で世界に紹介いたしました。今後も基金の活動をより活発に展開することにより、世界とともに生きる、価値ある日本をアピールして参りたいと存じます。

同時に、日本を知っていただくだけでなく、諸外国と日本とのさまざまな結びつき、絆をさらに深めていくことが大切です。そのためには、海外の方々とともに考え、取り組んで行く、いわば文化を共同で創造していく事業や、互いに触れ合い、知り合う、双方向の交流事業、さらには相手国の文化の振興に関与していく事業を実施していくことも重要と考えています。

もちろん、わが国の財政事情は厳しさを増し、行財政改革の取り組みが真剣に行われているなか、当基金においても、少ないリソースであっても、より効率的な事業展開を行うことは不可欠です。政府機関や国内外の民間団体等との連携・協力も従来に加えて一層進め、オール・ジャパンでの取組みを進めていきます。

世界はいま、厳しいチャレンジに直面しています。日本の国民の皆さまの幅広いご理解を得て、国際交流基金は、今後も皆さまとともに、前へ進んで参ります。

2012年10月

国際交流基金
理事長 安藤 裕康